

18大と日本語協会

後藤千恵

11月になり、太原ではぐっと冷え込む日が多くなりました。15日には雪が降りました。この雪は午後3時頃から午後8時頃まで降り続き、1cmばかり積りましたし、ほぼ毎日、気温は零度を下回ります。宿舎の中には暖气(ヌアンチー)も設置されているので快適に過ごすことができますが、外に出ると、朝晩は特に冷えますし、耳が痛くなるほど寒い日もあります。太原市出身の友人によると、11月はまだ暖かいといえるようで、これからだんだんと寒くなり、気温は-10度以下にまで下がるそうです。

11月8日に開幕した中国共産党第18回人民代表大会(以下18大)の関係で、山西大学でも18大に関するものを見ることができました。道路の脇の掲示板で18大の開幕を知らせるものを見ましたし、また、8日には校舎の入り口の大きなスクリーンに18大を祝う言葉が映されていたりもしました。さらに、18大終了後にはその内容や解説のようなものが書かれているものが掲示されていました。

普段は中国共産党の影響などを意識することはほとんどありませんが、このような重要なイベントの際や、他国との関係が悪化した時など、一般の人や生活、大学などの学校との結びつきが比較的密であることを感じます。

今月から本格的に活動を開始した日语協会(日本語協会:「協会」はクラブやサークルを指す言葉で、このほかに「社団」という言葉もよく使われます。)に私も参加させていただきました。活動内容は主に日本語の学習で、午後7時から9時の時間の中で、1時間は平仮名、片仮名を学び、残りの1時間は日本のアニメや映画を鑑賞していました。参加者は主に日本語学科の1年生、また他学科で日本語を学びたい学生です。教える方も同じく学生です。主催は日本語学科の2年生で、日本語協会の役員の学生の日本語のレベルは1年学習しただけとは思えないほど高く、彼らの知識量と積極性に驚かされました。私は主に彼らと話していましたが、話せば話すほど、自分の語彙の少なさと文章を作る速度の遅さを自覚しますし、私に対して話す中国語の速さと、中国人の友人に話す速さにずいぶんと差があり、気を使ってくれているのが感じられました。今後こうした交流を通して中国語の会話能力を高めるとともに、中国について理解を深め、日本や埼玉県についても知ってもらいたいと思っています。



18大開幕の日に、校舎の前で撮影したものです。勉学に励むようにということと、18大開幕を祝う言葉が映されています。



日本語協会の様子です。平仮名の発音と書き方を学んでいます。